

新才能「吉祥天」演出覚書

場 景 「前場」京都東山・清水寺、田村堂の前
五月二十三日・田村麻呂公八百年忌、祈念法要の日
その一月後、6月末頃、陸奥国(奥州)平泉の達谷の窟・毘沙門堂内

「後場」陸奥国・陸前高田(現在の陸前高田市)奇跡の一本松の下

人 物 前シテ: 郷の高貴な婦人
前ツレ: 父尉
後シテ: 吉祥天 (装束は古代中国の貴婦人着用の衣装デザイン、鬘は特殊髪形)
後ツレ: 百々神^{ももがみ} / 百々乃龍神 (意富加牟豆美命=大神実神^{おおかむずみのかみ}とも表記する
清水寺の龍生会・青龍の特殊演出?)
ワキ: 清水寺の高僧
ワキツレ: 清水寺の僧侶
間狂言: 語り部

作り物 「奇跡の一本松」後場に、舞台正面先に設置、松の前に祭壇棚設置

照明 特殊演出効果の照明装置設置

※ 達谷の窟・毘沙門堂の表記では『真言は多聞天』となっているが、これは正来、多聞天と毘沙門天は同一である為、本作では毘沙門天の名称に統一することにした

百々乃龍神とは「アメツチの恵み」の象徴 天の恵み(知恵)+地の恵み(知恵)を併せ持つ

百(たくさん)を双つで百々(モモ)と云う

本作(謡曲)を創造するきっかけとなり、啓示を受けて描くことになった絵画作品『吉祥天龍神図』の中では、鱗を桃色に表現している

「古事記」の〈黄泉の国〉の条に登場する

イザナギノ命が亡き妻・イザナミノ命を黄泉の国から連れ戻そうとして失敗し、八柱の雷神と黄泉軍に追われる。地上との境にある黄泉比良坂^{よもつひらさか}の麓まで逃げてきた時に、そこに生えていた桃の実を三個取って投げつけると、雷神と黄泉軍は撤退した。その功績により桃の実は「意富加牟豆美命」の神名を授けられる。そして、「お前が私を助けたように、葦原の中津国(地上世界)のあらゆる生ある人々が苦しみに落ち、悲しみ悩む時に助けてやってくれ。」と命じられた。

実際の【慶長三陸地震】と呼ばれる震災は、慶長十六年十月二十八日(西暦千六百十一年十二月二日)に発生しているが、この度起った東日本大震災(平成二十三年(二千十一年)三月十一日発生)の鎮魂の為に創作した能である故、物語の中では三月十一日にあえて設定した次第である

二千十三年卯月 創作者・浅山 澄夫